

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号：13903

研究種目：基盤研究(B)海外学術調査

研究期間：2008～2011

課題番号：20402027

研究課題名(和文) アジアの知識基盤型産業発展とグローバル・イノベーション・ネットワークに関する研究

研究課題名(英文) Research on the knowledge-based industrial development and global innovation network in Asia

研究代表者

徳丸 宜穂 (TOKUMARU NORIO)

名古屋工業大学・大学院工学研究科・准教授

研究者番号：00387656

研究分野：イノベーション研究

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：知識基盤型産業，産業クラスター，IT 産業，イノベーション，インド・南アジア

## 1. 研究計画の概要

本研究では、アジア経済が「イノベーション拠点」ともなりつつある現状を踏まえ、知識基盤型産業発展を可能にしているグローバルおよびローカルなメカニズムを明らかにすることを、第1の目的とする。また、こうした変化はとりわけ後発の BRICs 諸国において顕著であるから、先発の NIEs 諸国の段階での発展パターンと、BRICs 諸国のパターンとを識別・比較分析することも、本研究の第2の目的である。上記の傾向は、とくに IT 関連産業において顕著であるから、IT 関連産業を主要対象とし、自動車関連産業を比較対象として、詳細な知見を得るために、インド、中国、バングラデシュ、タイ、フィリピンで現地調査を行う。したがって、IT 関連部門が生み出す発展メカニズムの固有性・特殊性を、既存産業の場合との対比において明らかにし、また同じ BRICs に属するインドおよび中国の発展メカニズムの相違を、IT 関連産業という限定的な視角からではあるが一定程度明らかにすることが、本研究の第3の目的である。

## 2. 研究の進捗状況

(1)インド(バンガロール、デリー、ハイデラバード、プネ)、バングラデシュ、フィリピン、中国(大連)の各地で、IT 企業・政府機関・業界団体などを対象とした聞き取り調査を数次にわたり実施した。それにより、①主要な対象マーケット、②能力開発、③人材育成・確保と労務管理、④産業クラスターとの関係、⑤今後の戦略などの諸点について、詳細な知見を得ることができた。この知見は、次の(2)に挙げるアンケート調査票作成および実施に非常に有益であった。

(2)インド(バンガロール、グルガオン、ノイダ)およびバングラデシュの IT 企業を対象

に、アンケート調査を実施した。先行研究では十分な分析対象とされてこなかった中小 IT 企業に焦点を当てて、体系的な調査を行った点が、本調査の特筆すべき点である。本格的な分析は今年度に行うが、昨年度行った予備的分析によれば、この調査によって、個別企業の能力形成にとって産業クラスターが持つ意味を相当程度明らかにし得たと考えている。同じ調査は今年度、中国・北京でも行う予定である。

(3)調査対象地域を含む BRICs 段階の産業発展を、世界経済のマクロ的動態の中に位置づける研究を行った。この研究により、上記のような歴史的発展の中に位置づけるのか、またグローバル経済のなかになかに位置づけるのかを明らかにすることができたと考えている。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

その理由は、聞き取り調査およびアンケート調査の実査がおおむね予定通りに進捗しているためである。また、中国調査は協力者の都合上、最終年度に持ち越さざるを得なかったものの、実査の打合せを済ませており、今年度実施可能であるためである。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1)上記の通り、中国でのアンケート調査の実査を行い、速やかに分析を行い、インドで得られた結果と比較する。

(2)今年度は最終年度なので、12月に名古屋で、研究を総括するための国際シンポジウムを開催する。インド、バングラデシュ、中国より研究者を招聘し、報告・討論を行う。こ

の結果を本共同研究の代表的な成果物として、英文出版する予定である。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 徳丸宜穂, 2010, 東アジアの技術蓄積と輸出競争力: 特に IT 関連部門を中心に, 平川均・多和田眞・奥村隆平・家森信善・徐正解編『東アジアの新産業集積—地域発展と競争・共生』学術出版会. 査読なし.

2. Jin Kyo SHIN, Joung Hae SEO and Hitoshi HIRAKAWA, 2010, Market Orientation and Technology Innovation in Korean IT SMEs: The Moderating Role of Cross functional Cooperation and Cooperation with Outside Organizations, *Studies in Regional Science* 40(4), 査読あり.

3. Naoko Shinkai and Monzur Hossain, 2010, Impact of the Global Financial Crisis on the IT sector in Bangladesh: Lessons Learned and Policy Recommendations, GSID Discussion Paper No.181. 査読なし.

4. 徳丸宜穂, 2009, 日本市場におけるインド IT 企業の展開: 「二重のミスマッチ」と「コスト削減指向のディレンマ」, 日本経営学会編『経営学論集』第 80 集. 査読なし.

5. Norio Tokumaru, 2009, Technology accumulation in East Asia: A statistical analysis of the ‘uneven’ accumulation of technological competence, *Économies et Sociétés (Série W)* 11. 査読あり.

[学会発表] (計 4 件)

1. Norio Tokumaru, Clustering and capability building in Indian IT industry, International Conference on Industrial Agglomeration, Regional Integration and Durable Growth in East Asia. Foreign Trade University, Vietnam. 2010 年 10 月 29 日.

2. Hitoshi Hirakawa, East Asian Economy’s Structural Change and New Industrial Cluster, International Conference on Industrial Agglomeration, Regional Integration and Durable Growth in East Asia. Foreign Trade University, Vietnam. 2010 年 10 月 29 日.

3. Naoko Shinkai, Overview of measurements of poverty: Case of Asian countries, 2<sup>nd</sup> Annual Conference of Academic Network for Development in Asia, プノンペン. 2010 年 1 月 8 日.

4. 徳丸宜穂, インド・ソフトウェア産業の輸出指向型発展と能力形成: 能力形成経路を制約する構造とパス・クリエーションの可能性, 進化経済学会大会, 四天王寺大学, 2010 年 3 月 28 日.

[図書] (計 1 件)

1. 平川均・多和田眞・奥村隆平・家森信善・徐正解編『東アジアの新産業集積—地域発展と競争・共生』学術出版会. 603 ページ.